

最後の文化祭

脚本 CineOps

第一稿

(これはサンプル脚本です)

登場人物 (演劇部・主要)

高島ミオ (17・3年) …… 演劇部部长／主演
南雲カイ (17・3年) …… 演劇部副部长／役者
清瀬ハルナ (17・3年) …… 美術担当／ミオの親友
矢吹シヨウタ (16・2年) …… 照明／音響
菅野リナ (16・2年) …… 小道具／衣装
佐伯アヤ (15・1年) …… 新入部員
井上ナツキ (15・1年) …… 新入部員
古賀トオル (17・3年) …… 脚本担当

登場人物 (生徒会・クラスメイト)

生徒会長・滝沢 (18・3年)
副会長・木下 (17・3年)
書記・奈良岡 (16・2年)
会計・百瀬 (16・2年)
クラス担任・湊先生 (32・国語)
演劇部顧問・柏木先生 (45・英語)
校長・黒沢 (58)

登場人物 (その他)

ミオの母・高島志乃 (45)
カイの父・南雲耕二 (50)

廃校決定の町役場・職員 (40)

OB・OG席の卒業生代表

取材に来た地方新聞記者 (35)

場所 (ロケ地)

県立八里高等学校 (外観／体育館／視聴覚室／美術室／

保健室／渡り廊下／中庭／グラウンド／屋上／校長室／職員室／教室)

ミオの自宅／カイの自宅

町役場外観

下校路の商店街

地元駅

○1 県立八里高等学校・外観 (朝)

山の麓、築六十年の古い校舎。

正門の石柱に「県立八里高等学校」。

正門脇に、新しい告知板。

「令和九年三月をもって閉校」

始業のチャイム。

制服姿の生徒たちが、駆け込んでいく。

○2 校舎・廊下 (朝)

三年A組の廊下。

ミオ (17)、ハルナ (17) と並んで教室へ。

二人とも髪を結び、制服のリボンを揺らして歩く。

ミオ「今年の文化祭……最後だね」

ハルナ「うん」

ミオ「演劇、何やるか、決まった？」

ハルナ「古賀くんが、また書くって」

○3 三年A組・教室（朝）

湊先生（32）がホームルーム。

生徒たち30名ほど。

湊「えー、皆さんも知ってる通り、今年度で八里高校は閉校します。

最後の文化祭、いつもより準備期間も長めに取ります」

ざわつく生徒たち。

湊「クラスの出し物、今日の放課後までに決めて、
文化祭実行委員に出してください」

○4 視聴覚室・演劇部部室（放課後）

古い映写機が置かれたままの視聴覚室。

演劇部が全員集合。

部員、総勢8名。

ミオ「みんな、今日は大事な話があります」

全員、注目。

ミオ「最後の文化祭。最後の演劇。

私たち演劇部の、集大成をやりたい」

カイ「何をやるの」

ミオ『『ロミオとジュリエット』』

全員、どよめく。

シヨウタ「照明、プロ仕様になるやつ！」

リナ「衣装、どうするの。お姫様ドレスとか」

ハルナ「縫いましょう。みんなで」

古賀「脚本、現代アレンジでよくない？」

八里高校、廃校になる。ロミオとジュリエット、
最後の恋を演る。そういう枠にしよう」

ミオ「……いい」

全員、頷く。

○5 校舎・中庭（昼休み）

中庭、桜の木のベンチ。

ミオ、弁当を食べている。

そこへカイが来る。

カイ「隣、いい？」

ミオ「どうぞ」

カイ、座る。

カイ「ロミオ役、やれって言うんだろ」

ミオ「うん。あんたしかいない」

カイ「……ジュリエットは」

ミオ「……私、やるつもり」

カイ、ミオの顔を見る。

ミオ、視線を外さない。

○6 校舎・屋上（昼）

屋上。フェンス越しに校庭が見える。

ハルナと古賀、話している。

ハルナ「ミオ、本気だよ」

古賀「わかってる」

ハルナ「廃校決まって、一番ショック受けたの、あの子だから」

古賀「俺ができることは、最高の台本を書くことだけや」

昼休みの終わりのチャイム。

○7 商店街・下校路（夕）

商店街のアーケード。

ミオ、ハルナ、シヨウタ、リナが並んで歩く。

生地屋の前で立ち止まる。

リナ「この布、ジュリエットのドレスに使えるかも」

シヨウタ「（値札を見て）お前、予算いくらあるつもりや」

リナ「文化祭費、3万円」

ショウタ「これ買ったら、他、何もできへんで」

ハルナ「そしたら、家にある古いシート、集めて染めよう」

ミオ「（笑う）手作り感、出るね」

○8 ミオの自宅・玄関（夕）

古い一軒家。

ミオ、ただいま、と入る。

ミオ「ただいま」

志乃の声「おかえり」

ミオ「お母さん、今年の文化祭、ジュリエットやる」

志乃の声「（奥から）へえ〜」

○9 ミオの自宅・居間（夜）

食卓。

ミオと志乃、夕食。

志乃「最後の文化祭やもんね」

ミオ「うん」

志乃「お母さんも、お手伝いに行くよ。衣装作り、得意やし」

ミオ「ほんと？ 助かる」

志乃「(しみじみ) 学校なくなるの、やっぱり寂しいな」

○10 視聴覚室・演劇部部室(夜)

残業している古賀。

机にノートPC。原稿用紙のように書いている。

古賀「(ひとり言) ……『ああロミオ、あなたはなぜロミオなの』……
くそ、ベタやな」

柏木先生(由) が差し入れを持ってくる。

柏木「頑張っとるか」

古賀「先生、どうしたんすか」

柏木「(コンビニ袋を置く) 差し入れや」

柏木「ベタでええんよ。ベタなことを、本気でやる。
それが演劇や」

古賀、深くうなづく。

○11 校舎・美術室(放課後／一週後)

ハルナと美術部員たちが、大道具の背景画を描いている。
ヴェローナの街並み。
キャンバスは畳二枚分。

ハルナ「ここ、もっと朱色で」

美術部員「はい」

入り口でミオが覗き込む。

ミオ「わあ、すごい」

ハルナ「まだ半分」

○12 校舎・渡り廊下（放課後）

シヨウタとリナが、大きな段ボールを運んでいる。
中から布地や古いシーツ。

シヨウタ「PTAの人たち、すごい集めてくれたな」

リナ「先生が声かけてくれて」

校長・黒沢（㊿）とすれ違う。
二人、会釈。

黒沢「衣装かね」

リナ「はい。ジュリエットのドレスとか」

黒沢「楽しみにしとるよ」

黒沢、去る。

リナ、シヨウタに小声で。

リナ「校長、寂しそうやな」

シヨウタ「そら、最後やもん」

○13 ミオの自宅・居間（夜）

志乃がミシンを踏んでいる。

床に赤い布が広がっている。

志乃「ジュリエット、どんな感じにする？」

ミオ「深紅で、でも、派手すぎない感じ」

志乃「（微笑む）了解」

○14 視聴覚室・読み合わせ（夜）

演劇部、台本を手に読み合わせ。

全員、机を囲んで座る。

古賀「では、第一幕から」

ミオ（ジュリエット役）「ああロミオ、あなたはなぜロミオなの」

カイ（ロミオ役）「名を捨てよう……」

二人、視線を合わせる。

空気、張り詰める。

ハルナ、シヨウタ、リナ、息を呑む。

古賀「……うん、ええ」

○15 体育館・舞台（朝／2週後）

がらんとした体育館。舞台。

照明機材が吊られている。

シヨウタ「スポット、ここに二台ね」

脚立の上のシヨウタ。

下でカイが支えている。

カイ「大丈夫か」

シヨウタ「おう」

舞台袖、リナとハルナが道具を配置している。

○16 校舎・職員室（昼）

湊先生と柏木先生が話している。

湊「文化祭、思ったより来場者多そうですよ」

柏木「閉校記念も兼ねてるしな」

湊「卒業生も、何百人単位で来るって」

柏木「（苦笑）消防法、大丈夫か」

○17 校長室（昼）

校長・黒沢と、町役場職員（40）。

町役場「校長先生、文化祭終わったら、体育館の解体日程を……」

黒沢「わかつとります」

町役場「消防署からも、当日の来場者管理、お願いします言われてまして」

黒沢「ご心配なく。私の最後の仕事です」

黒沢、窓の外、校庭で部活をする生徒たちを見る。

○18 商店街（夕）

ミオとカイ、帰り道。
信号待ち。

カイ「なあ」

ミオ「ん？」

カイ「俺、卒業したら、東京行く」

ミオ「知ってる。前、言ってた」

カイ「ミオは、地元の大学やろ」

ミオ「うん」

信号、青。

二人、歩き出す。

カイ「今回の、演劇」

ミオ「うん」

カイ「本気でやるわ。後悔したくないから」

ミオ、横顔を見て、微笑む。

○19 体育館・舞台（夜）

通し稽古。

部員全員＋助っ人の生徒会メンバー。

ミオとカイの芝居。

ミオ「名前なんて、バラだって、名前が変わっても、
いい香りに変わりはないわ」

カイ「俺の名を捨てる、ジュリエット」

シヨウタ、ピンスポットをミオに当てる。

舞台、ぱあっと光が絞られる。

部員一同、息を呑む。

古賀「……いい、めっちゃいい」

○20 視聴覚室・部室（深夜）

通し稽古後。

部員たち、倒れるように座り込んでいる。

ハルナ「疲れた……」

リナ「あと一週間」

シヨウタ「音響も、もうちよつと詰めな」

ミオ、一人、端で台本を見ている。

柏木先生が入ってくる。

柏木「みんな、今日はもう帰り。明日、体育やで」

部員、笑う。

○21 ミオの自宅・居間（夜）

志乃、ミオにドレスを着せている。

完成したジュリエットのドレス。深紅にレース。

志乃「どう？」

ミオ「(鏡の前でくるくる)……お姫様、みたい」

志乃「(涙ぐむ) 似合う」

ミオ「お母さん、ありがとう」

○22 校舎・保健室(朝／文化祭前日)

リナが熱を出して寝ている。

養護教諭が看病。

リナ「(うわごと)……小道具、まだ……剣……」

ハルナが駆けつける。

ハルナ「リナ、大丈夫？」

リナ「ハルナ……ロミオの剣、まだ塗ってない」

ハルナ「私やっとく。休んで」

○23 美術室(昼／文化祭前日)

ハルナ、劇用の剣(発泡スチロール製)に銀塗料を塗っている。

そこへ1年生の佐伯アヤ(15)が来る。

アヤ「先輩、手伝います」

ハルナ「ありがとう。鞘、色塗って」

○24 校舎・正門（朝／文化祭当日）

朝八時。

正門に、文化祭の大きなアーチ。

「八里高校 最後の文化祭 くさよなら、わたしたちの母校」

続々と来場者が集まる。

卒業生、地元住民、他校生、家族連れ。

正門で、生徒会メンバーが受付。

滝沢、木下、奈良岡、百瀬、全員パリッとした制服。

○25 校舎・廊下（午前）

模擬店ブース。

各クラスが喫茶、たこ焼き、縁日、お化け屋敷など。

廊下を、ミオが早足で歩く。

緊張した顔。

体育館へ。

○26 体育館・舞台袖（午前）

上演「時間前」。

ミオ、衣装に着替えている。

ハルナがヘアメイク。

ハルナ「大丈夫」

ミオ「……緊張する」

ハルナ「私、最前列で見とる。ミオだけ見てる」

カイが来る。

ロミオ衣装。マント姿。

カイ「……おう」

ミオ「……うん」

二人、見つめ合う。

シヨウタが袖から顔を出す。

シヨウタ「開演十分前！ 座席、満員！」

○27 体育館・客席（午前）

体育館、五百人ほど収まる。
満員。

前列に志乃、耕三、PTA。
後列に他校生、地元民、卒業生。

中央の座席に黒沢校長、町役場職員、新聞記者。

照明が落ちる。

場内、静まる。

○28 体育館・舞台（午前）

舞台、ゆっくり明るくなる。
ヴェローナの街並みの背景画。

舞踏会のシーン。

部員と助っ人生徒たちが踊る。

ミオ（ジュリエット）とカイ（ロミオ）、目が合う。

二人、近づく。
指先が触れる。

ミオ「(台詞) 巡礼の方、あなたの手は、
聖地を汚しすぎでしょうか」

カイ「(台詞) ならばその唇で、罪を洗い流して」

○29 体育館・舞台(昼／劇中盤)

別れのシーン。

窓際、夜のベランダ。

ミオ「ああロミオ、あなたはなぜロミオなの」

カイ「……名前なんて、捨てる」

二人、抱き合う。

客席、シン、と静まり返っている。

志乃、涙を拭く。

○30 体育館・舞台袖(劇中・緊急)

第三幕。ロミオが剣を構える。

ふと、剣(発泡スチロール)がすっぱ抜けて、舞台袖に飛ぶ。
袖にいた1年・井上ナツキ、慌てて拾う。

舞台上のカイ、動じずアドリブ。

カイ「(台詞アドリブ) 運命よ、我が剣まで、我を見放したか」

観客、くすくす笑う。

ナツキ、素早く剣を戻す。
舞台袖に戻ったショウタ、ガッツポーズ。

○ 3 1 体育館・舞台（午後／クライマックス）

毒薬を煽るロミオ。
倒れるロミオ。

駆けつけるジュリエット。

ロミオの死を確認し、嘆く。

ミオ「ああ、遅かった」

ジュリエット、ロミオの短剣を取る。
胸に当てる。

ミオ「ロミオ……あなたのもとへ」

ミオ、舞台に崩れる。

照明、ゆっくり落ちる。
暗転。

○ 3 2 体育館・舞台（夕／カーテンコール）

ゆっくり照明が戻る。
キャスト全員、舞台に並ぶ。
お辞儀。

客席、拍手。
スタンディングオベーション。

ミオ、客席を見渡す。
志乃、泣いている。

校長、何度もうなずいている。
ハルナ、最前列で満面の笑顔。

○33 体育館・舞台袖（夕）

カーテンコール後。
部員、全員抱き合っている。
泣き笑い。

カイ「やった……やりきった……」

ミオ「ありがとう、みんな」

ショウタ、涙目でマイクを抱えている。

リナ（熱下がって駆けつけた）、車椅子で。

古賀、少し離れたところで一人、涙を拭いている。

○34 校舎・屋上（夕）

夕焼け。

ミオとカイ、屋上。

下校の生徒たちが帰っていく。

カイ「俺、明日から、台本、本気で書き始める」

ミオ「え？」

カイ「進路、変えた。東京の演劇学校、受ける」

ミオ「……そう」

カイ、ミオの手を握る。

カイ「遠距離、嫌か」

ミオ「ううん。がんばって」

二人、夕日を見る。

○ 3 5 校舎・外観（翌朝）

翌朝。

空になった校舎。

正門の告知板。

「令和九年三月をもって閉校」

校庭に、文化祭のアーチがまだ残っている。

風に、紅白の紙が揺れている。

用務員が、ゆっくりとアーチを外している。

遠くから、下校途中だったらしい生徒が、
振り返ってアーチを見る。

終